

熊本市のカササギ *Pica pica* の記録

鈴木 圭¹⁾, 小園麻由美²⁾

¹⁾森林総合研究所九州支所, ²⁾熊本市在住

A record of the Eurasian Magpie *Pica pica* in Kumamoto City

Kei K. Suzuki¹⁾, Mayumi Kozono²⁾

¹⁾Kyushu Research Center, Forestry and Forest Products Research Institute

²⁾Citizen of Kumamoto

はじめに

カササギ *Pica pica* は佐賀県や福岡県では普通に見られる鳥であるが、他の地域ではあまり見られない。本種の分布は非常に局所的であることから、本来は日本には生息しておらず、16世紀末に人為的に導入されたと考えられている(江口・久保 1992)。本種の分布は過去から現在にかけて江口(2016)に詳細に総説されており、熊本県内においては近年では1980年以降に生息が確認されるようになった。荒尾市や玉名市では繁殖期に確認されている一方で、それより以南では冬季に数例の目撃例はあるものの、分布ははっきりしていない。

熊本市内では数年に一度程度の頻度で確認されており、最近では2020年や2021年の1月に江津湖における観察が江津湖公園のスタッフブログに掲載されている(<https://www.ezuko-park.com/blog/29757>; <https://www.ezuko-park.com/blog/33398>; 2022年4月15日確

認)。筆者らは、2022年4月に熊本市内において本種を2個体確認したので報告する。

観察記録

1. 日 時 2022年4月15日に電柱上にて本種を撮影(図1)したが、筆者らの一人は約1ヶ月前から度々目撃していた。
2. 場 所 熊本市南区御幸笛田
(34°45'51.2" N, 130°43'03.5" E)。
3. 個体数 成鳥2個体。

本種は3月から5月ごろに巣作りや産卵するが(Eguchi 1996; Antonov and Atanasova 2003)、熊本県内の繁殖期の観察はこれまで荒尾市や玉名市のように県内北部が主であった。日本野鳥の会熊本支部(2016)によると熊本市でも繁殖が確認されているが、確認された正確な年や時期は不明確であった。本調査では営巣行動などは確認し



図1 熊本市中央区における2個体のカササギ。

ていないものの、この時期の熊本市内においても本種が生息していることを示す貴重な知見である。

引用文献

Antonov, A. and Atanasova D. 2003. Small-scale differences in the breeding ecology of urban and rural Magpies *Pica pica*. *Ornis Fennica* 80 : 21-30.
Eguchi, K. 1996. Recent increase of nesting on utility poles by the black-billed magpie *Pica pica*

sericea. *Japanese Journal of Ornithology* 45 : 101-107.

江口和洋. 2016. カササギ. *日本鳥学会誌* 65 : 5-30.

江口和洋・久保浩洋. 1992. 日本産カササギ *Pica pica sericea* の由来—史料調査による. *山階鳥類研究所研究報告* 24 : 32-39.

日本野鳥の会熊本支部. 2016. 234. カササギ. *熊本県鳥類誌* (熊本県産鳥類目録). 185-186. *日本野鳥の会熊本支部*, 熊本.

受付日：2022年4月14日 受理日：2022年4月16日

連絡先：鈴木 圭

〒860-0862 熊本県熊本市中央区黒髪4-11-16
(国研) 森林研究・整備機構森林総合研究所九州支所
電子メール pteromysuzuki@affrc.go.jp